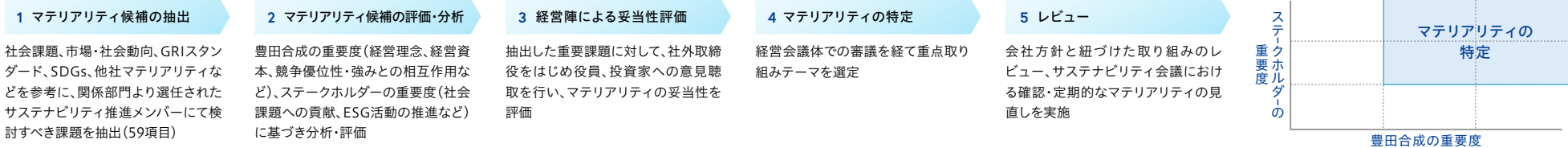


マテリアリティ(重要課題)

私たちは「限らない創造 社会への奉仕」を社是とし、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、「社会的価値」と「経済的価値」の両立を目指しています。
2030事業計画で掲げている「目指す姿」と「提供価値」の実現に向けて、変化する事業環境を考慮し、社会予測やSDGsなどのさまざまな社会課題の中から、当社として特に貢献できる重要な分野を「マテリアリティ」として選定し、取り組んでいます。

マテリアリティ
特定のプロセス



事業活動	社会課題／メガトレンド	機会とリスク			発現時期			企業インパクト			
					短期	中期	長期	ポジティブ (機会)	ネガティブ (リスク)		
	■自動車の技術革新(電動化・知能化)と安心・安全なモビリティ社会の両立	CASE(BEV/FCEV)市場拡大	BEV普及による新技術・新製品の戦略的な市場投入(OEM・サプライチェーンの進化)	●	●	●			↑↑	↓↓	
			BEV先行市場の拡大、BEV先行OEMの躍進(市場・勢力図の変化)	●	●	●			↑	↓↓	
			環境負荷の低いHEV・PHEVの需要拡大	●	●	●			↑↑		
			FCEV市場の伸展			●			↑↑↑		
			交通事故未然防止技術の進化	●	●	●			↑↑↑		
		■デジタル・IT化の加速による企業競争力の変化	MaaS市場拡大	利用者のクルマに対する価値観・使い方の変化(交通インフラの発達、より快適な車室空間)		●	●			↑↑	↓↓
			市場変化	新興国のインフラ強化・法規制による自動車市場拡大	●	●	●			↑↑↑	
			デジタル化・IoT・DX加速	生産～納入の効率化(リアルタイムモニタ・予防保全・無人化など)	●	●	●			↑↑↑	
■環境問題の深刻化	環境・資源	グリーンテクノロジー※、グリーントランスフォーメーションによる新分野の市場拡大	●	●	●			↑↑↑	↓↓		
		カーボンプライシングの導入による競争力の変化		●	●			↑↑↑	↓↓↓		
		ゴム・樹脂材料の使いこなし、材料開発(リサイクル材料、軽量化、材料置換、新規材料)	●	●	●			↑↑↑	↓↓		
		異常気象による大規模災害	●	●	●			↑↑	↓↓↓		
		省エネ・再エネの促進(エネルギーコスト低減、GHG排出量削減)	●	●	●			↑↑↑			
	■人口構造の変化(少子・高齢化)	人的資本	DE&Iの促進による思考・スキル・経験の多様化	●	●	●			↑↑↑		
			人材ポートフォリオに基づく効率的な人的資本の活用	●	●	●			↑↑↑		
			労務費高騰、採用難	●	●	●				↓↓	
		■価値観の変化／働き方の多様化	サプライチェーン	国・地域間対立の激化や感染症・災害による生産変動、サプライチェーン分断、人的被害	●	●	●			↑↑	↓↓↓
				部品・原材料不足・価格高騰、物流コストの上昇	●	●	●				↓↓↓
■BCPリスク	ガバナンス	重要品質問題・リコールの発生	(●)	(●)	(●)				↓↓↓		
		サイバー攻撃・詐欺メール	(●)	(●)	(●)				↓↓↓		
		機密情報漏洩	(●)	(●)	(●)				↓↓		
		独占禁止法違反(談合・カルテル)	(●)	(●)	(●)				↓↓		
			※ グリーンテクノロジー： 環境問題を解決、あるいは緩和するための技術・製品(例：軽量化や脱炭素に資する技術・製品など)			短期(3年以内)、 中期(2029年まで)、 長期(2030年以降)			↑：ポジティブインパクト、 ↓：ネガティブインパクト		

マテリアリティ(重要課題)

事業活動	サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)	主な取り組み (社会課題・機会リスクへの対応)	KPI・中長期目標(2030年度)	関連するSDGs 最重要分野
	- クルマの様変わりへの対応 - 交通死亡事故の低減による 安心・安全・快適なモビリティ社会の実現	- BEV化に向けた新製品の開発 - BEV先行市場・OEMへの拡販	BEV関連売上収益比率:40% 目標設定の計算式 BEV生産台数/自動車生産台数 ※S&Pグローバル情報に基づく	 安心・安全・快適な モビリティ社会の実現
	コア技術を活用した新規事業の創出	- 新規事業開発の経験を活かした新規ビジネス拡大 - コーポレートベンチャーキャピタルの活用 - デジタル化推進による業務革新	キャッシュ・アロケーションに基づく (安心・安全、快適、脱炭素の貢献領域の拡大を目指した研究開発費や 人的投資、戦略投資を中心に資金配分)	 イノベーション創出による 社会課題解決
	- CO₂排出量削減・温室効果ガス排出量 削減による脱炭素社会の構築 - 廃棄物低減・水リスク低減による 循環型社会の構築	- ゴム・樹脂分野の知見を活かした 環境配慮型ビジネスの構築 - カーボンニュートラルの実現に 向けたグローバル体活動 - 循環型社会への貢献 (Car to Car リサイクル)	- スコープ1、2:カーボンニュートラル - スコープ3:△27.5%(2019年比) - 再エネ導入率:100% - 廃棄物量(総量)【単体】:△50%(2012年比) - 廃棄物量(原単位)【海外】:△55%(2015年比) - 軽量化技術開発:△5.0kg以上/台 - 再生ゴムの活用【単体】:1,200t/年間の製品化	   脱炭素・循環型 社会の実現
	- 地域社会との共生 - 多様な人材の活用推進・人権尊重	- 地域社会に根差した取り組み (地域自立的経営、センターオブエクセレンス) - ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン - 安全・健康経営 - サステナビリティ経営を支える品質と サプライチェーンの強化 - 地政学・経済的リスクへの対応	- 人権に関する研修実施率:100% - 海外拠点のナショナルスタッフ幹部比率(副社長以上):60%以上 - 女性管理職数(比率)【単体】:100人(8.8%) - 中途採用者の管理職比率【単体】:30%以上 - 重大災害発生件数:0件 - 仕入先のサステナビリティ活動実施率:100% - 人材ポートフォリオ「15の人材」(強化分野に必要な人員)充足率【単体】:100% - 市民開発の育成人数【単体】:累計2,000人 「健康チャレンジ8」平均スコア【単体】:6.1 ※適正体重、運動、飲酒、禁煙、朝食摂取、間食、睡眠、ストレスの平均スコア - 従業員エンゲージメント肯定率【単体】:75%	  多様な人材の活躍による 持続的成長
経営基盤	- 誠実な会社としての コーポレートガバナンス - コンプライアンスの徹底	- BCPのレジリエンス強化 - 内部統制の強化	- 重大法令違反件数:0件 - サイバーセキュリティ重大インシデント:0件	 公平で透明性のある 企業統治体制